

南仏治安情報（9月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）仏人ジハーディストの増加（報道）

現在、300人以上のフランス人がジハーディストとしてイスラム戦線へ赴いていると見られている。また、海外でジハーディストとして爆弾製造技術等を習得した者が帰仏するケースも散見される。

トゥールーズ出身の22歳男性がジハーディストとなりシリアで戦死した件で、7月に同じくジハーディストである兄がアラーを礼賛し仏政府がイスラムと戦うことを止めるようネットで発言したことが話題となった。これに関し父親は、「彼らのような軽犯罪歴を持つフランス人は仏社会から疎まれ適合できなくなり、イスラム世界を羨望してジハーディストになっていくのではないか」とコメントした。

● 殺人（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、地元サッカーチーム運動部長の息子を狙った殺人事件

5日、サッカーチーム「オリンピック・マルセイユ」運動部長の息子が、乗っていた車から降りたところをスクーターに乗った2人組に至近距離から撃たれ殺害された。

本件でマルセイユ地方発生 of 殺人は今年15件となった。

（2）BDR県ラ・シオタ発生、被害者職場前での殺人事件

5日早朝、24歳の男性が、職場である“URBASER”社を出たところ何者かに銃殺された。犯人は3人組で、使用した車両は別の場所で燃やされているのを発見された。本件は被害者を待ち伏せして銃撃したものと見られている。

（3）コルシカ島アジャクシオ発生、殺人事件

18日午後、50歳の不動産ディベロッパー男性がアジャクシオにある仕事現場を離れようとした際、何者かに銃で頭を撃ち抜かれ殺害された。被害者は過去に別のディベロッパーと一緒に働いていたが、その同僚も2011年6月に何者かに殺害されている。

本件で今年17件目のコルシカ島内殺人事件となった。

● 強盗（邦人被害なし）

（1）ニース発生、宝石強盗事件

11日、宝石店「ラ・ターコイズ」の開店時間に2名の強盗が押し入り、宝石を渡すよう店長を脅した。宝石を奪ってスクーターで逃走した強盗に

対し、店長が銃で3発発砲し、強盗犯1名を射殺した。本件は店長が警察に逮捕されたことで、正当防衛の成立要件につき議論を引き起こした。

(2) マルセイユ発生、タバコ店強盗事件

31日朝、12区にあるタバコ店の入口を突き破って覆面を被り散弾銃を持った2人組が中に入ろうとしたところ、店主が散弾銃で応酬し、犯人のうち1名(17歳)を負傷させた。この負傷した犯人は逮捕され、残った1名は車で待機していた別の者と逃走した。検事は、店主の行為を正当防衛と認め、身柄拘束はしなかった。

● 傷害(邦人被害なし)

(1) マルセイユ発生、自動小銃使用の重傷傷害事件

1日早朝、1区のアオペラ座前広場付近のディスコ "Le Mademoiselle" にいた2グループの客が口論を始めた。このときはケンカに発展しなかったものの、口論後に立ち去った3人組が1時間後にカラシニコフ等の自動小銃を持って広場に戻り、車内から34発乱射して3名を負傷させ、うち1名に重傷を負わせた。

(2) マルセイユ発生、ギャング対立抗争による傷害事件

12日、1区ノワイユ地区等でタバコ闇販売を巡るギャング同士の縄張り争いが発生し、負傷者が出た。ちなみに1カートン当たりの利益はせいぜい10ユーロ程度と言われている。

(3) コルシカ島アジャクシオ発生、寿司店内銃乱射事件

12日夜、アジャクシオ市庁舎前にある日本人経営でない寿司店で、男1名が銃を乱射し、店内にいた3名を負傷させた。犯人はバイクで待っていた共犯者とともに逃走した。逃走に利用されたバイクは犯行から数分後に現場付近で燃やされていた。

(4) エクサン・プロヴァンス発生、交通トラブルに端を発した傷害事件

24日午後、交通上のトラブルから自動車の運転手2名がケンカを始め、29歳男が50代男性をナイフで数回刺した。なお、犯人はよほど興奮していたのか、ナイフで男性を襲った際に自分の指も切り落としていた。

(5) BDR県 Port-de-Bouc 発生、道路上での銃撃事件

25日昼頃、Republic 通りの中心部で2台の車が交差し、そのうち1台に乗車していた男が9mm口径の小銃でもう1台の車を運転していた男性に向け数発発砲した。この際、通り沿いの建設現場内で昼食を取っていた作業員が銃声を聞き、窓の外を覗いたところ後発の流れ弾に当たって重傷を負った。

(6) BDR県 Rognac 発生、ナイトクラブでの警備員銃撃事件

29日早朝、国道113号線沿いのナイトクラブ閉店時に客同士のケンカが発生し、これを止めに入った警備員2名が銃で腕と腹部を撃たれ負傷した。

● 薬物関連

(1) 地中海移動中の輸送船からの、大量の大麻樹脂押収

8日、モロッコを出たタンザニア船籍輸送船が、地中海上を通常でないルートを航行していたことから仏海軍が同船に対する緊急乗船を実施した。

輸送船側は船に火を放ち証拠隠滅を図ったが未遂に終わり、同船はトゥーロン港まで曳航され、船内からは推定20トンの大麻樹脂が押収された。

(2) コルシカ島・マルセイユ間移動の輸送船を利用した密輸事件の摘発

12日、コルシカの組織犯罪集団(11名)が、船会社SNCMの船員3、4名を買収して麻薬及び銃を本土に持ち込んでいたことが発覚し、現行犯逮捕された。後の捜査で、同様の手口が少なくとも1年以上続いていたことが判明した。

(3) マルセイユ及び周辺地域における密輸組織の一斉検挙

24日、警察が、薬物と銃器の取引をしていた集団約20名を逮捕した。本件捜査はマルセイユ市14区にある麻薬精製拠点を対象に1年前から行われていた。

● 特異窃盗(邦人被害なし)

(1) マルセイユ発生、観光バスを対象とした車上ねらい事件

20日、観光客を乗せたバスが2区にあるMUC EM(美術館)前に駐車中、男がドアロックを壊して車内に侵入し、客が置きっ放しにしていた貴重品類を盗んだ。男は逮捕され、執行猶予付き8ヶ月の懲役刑を言い渡された。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。